

響きあい Vol.7

平成 31 年 4 月
春 新年度号

みんなの「生きる」を
社会福祉法人



老人福祉施設カリヨンの郷
施設長 早川直也

前号でも触れましたが、最近「昭和」「平成」の対比記事が多くなった気がします。

例えば、昭和を代表する作家「司馬遼太郎」、平成の「村上春樹」。歌手では「美空ひばり」と安室奈美恵」など。

その他、新幹線デビュー当時の丸っこい愛らしいデザインの、「ゼロ系」と「のぞみ」を始めとした新型車両との比較の新聞記事も掲載されてました。

◇ ◇ ◇

平成は、「ネット中心の情報提供」の大変革があり、「はがきや手紙・新聞、雑誌」などの「紙媒体」から簡便な電子メールに変わり、テレビ中心のメディアに移った後、「ネット社会は人間の『善悪判断』を含め、考える力を極端に退化」させました。

最近では、宅配新聞をとる家庭も大幅に減り、新聞社も存亡の危機に直面しています。テレビのニュース映像では「視聴者提供」のリアルな映像が流されるのが本当に増えました。

また、「大災害時など」、情報が極端に減ると「デマやフェイクニュース」

が生れ、「ライオンが動物園から逃げた」など典型的な例です。当人はふざけて画像を加工し、「身内の仲間受け」のつもりでも、社会的大パニックになることもあります。最近多いのは、食品を取り扱うチェーン店やコンビニ等での不適切映像が拡散しています。「孤独な若者像」が実に心配です。

最近特に「超高齢化・超少子化・無縁化」といわれますが、その中でも「無縁化」の流れだけは止めることは可能だと思っています。また、都会を中心にいたるところにカメラが設置され、ドライブレコーダーの普及なども、安心感より「監視社会」に向かっている点は個人的には心配です。昨年暮れは大手携帯電話会社の通信障害の事案があり、北海道南部の地震の際には、停電による電子決裁等ができない状況が続き、「便利な社会に慣れ過ぎる」と反面では応用が利かず、そのリカバリーも困難になります。「サイバール」は死語かも知れませんが、最近では、自衛隊の「防災ブック」が売れているようです。

